

# 令和元年度第2回肝属保健医療圏地域医療構想調整会議 開催結果

日 時：令和元年11月21日（木）18:00～19:47

場 所：大隅地域振興局別館2階大会議室

出席者：肝属保健医療圏地域医療構想調整会議委員21人（うち代理出席4人）

傍聴者：20人（委員随行者・関係者を含む）、事務局：5人

## 1 議事内容

### (1) 報告

- ① 定量的基準について
- ② 公立病院・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証の要請等について

### (2) 協議

- ① 公立病院・公的医療機関等以外のその他の医療機関の具体的対応方針の協議の進め方について
- ② 外来医療計画について

## 2 協議結果

- (1) 公立病院・公的医療機関等以外のその他の医療機関の具体的対応方針の協議の進め方について  
地域医療構想調整会議が協議の中心になるが、幅広い領域から専門部会の部会員の選出について検討し、専門部会を活用した協議を進めていくことで了承が得られた。
- (2) 外来医療計画について  
外来医療計画検討内容報告書（案）について了承が得られた。

## 3 主な意見等

- ・我々の地域では既に2025年問題は来ている。地域の実情に合った対応を、地域住民の医療を守っていくという観点で、しっかりと議論しながら地域医療のあり方を本気で議論していただきたい。首都圏から地方に人をという議論もあるが、医療が無くなると人が来なくなる。その議論も必要ではないか。この地域をどうしていくかということについて医療は絶対に必要である。
- ・過疎地域には医師はなかなか来ていただけない。今回、個別の病院名が発表されたことで病院に来てくれる医師はいなくなるのではないか。こういう発表するときはもうちょっと慎重にさせていただきたかった。
- ・再検証の分析では、6月単月のデータが使用されておりデータ自体の信頼性が乏しいためデータの洗い直しを要求することをお願いしたい。
- ・医師が、自分や職員の生活を背負って、しかも人の病気と対峙するときに、頭を潰されるようなことがあるとやる気がしない、やる気が失せないような方向に持って行ってほしい。
- ・肝属圏域といっても、鹿屋市の中心、垂水市、南隅地区、肝付町それぞれに状況が違う。病院が無くなると、最悪の場合、人が住めなくなるということを意味する。高齢者はなかなか自身での移動もままならないため、他の地域の医療機関へ行くという論理が成り立たない。そういう意味でも肝属圏域全体として細かなすり合わせをして検討しながら結論を出していくことが大事である。肝属圏域で今後も存続し続ける、今後も人が住めるような医療の提供を我々自身で見つけていかないといけない。
- ・各首長は地元には病院と学校だけはなんとか残さないと人を維持できないと考えている。
- ・医師もみんな高齢化している。鹿屋市内の新規開業はほとんどない状態でありその中でいかに支え合っていくかが大事である。
- ・人口が減ってくるからだんだん仕事が楽になると思っていたが、年々手術症例が増えている。病気をする人は60歳以上である。人口構成をみると、2025年まで高齢者は増える見込みであり、病気をする人は増えてくるというのがこの地域の特徴である。一方では、医師が足りない、後方施設の充実をと、全く逆の議論になっている。かたや足りない、かたや多いという矛盾する問題点が出ているのでしっかりと議論しなければならない。
- ・病床を減らしていくということではなくどうやって支えていけるのかということが一番大事である。